

かめやま市民大学キラリ講演会

日 時 平成24年2月4日(土)午後1時30分~午後3時30分
場 所 亀山市文化会館中央コミュニティーセンター
参加者 350人
講 師 三重大学大学院医学部教授 珠玖 洋氏

身体に優しいがん治療

平成24年2月4日(土)にがん免疫療法への期待「身体に優しいがん治療」と題して、三重大学大学院医学系研究科・がんワクチン治療学、遺伝子・免疫細胞治療学の珠玖洋教授に講演して頂きました。

日本人の2人に1人ががんになり、さらに3人に1人が亡くなる時代となり「がんは特別な病気ではない」となってきました。

がんの治療は、外科療法(手術)、化学療法(薬物)、放射線療法が中心でしたが、近年では、免疫的療法(細胞治療)や特定の分子を標的とした治療法が次世代のがん治療となってきたと話されました。

では「がんはどうしてできるのでしょうか?」人間には免疫という独自のシステムで身体を守る仕組みがあります。外部からの細菌・ウイルスなど外敵が進入しても、免疫細胞が必死に戦っているために、病気にならなかつたり、病気になっても治つたりします。病気を治す自然治癒力というのは免疫力があるからと述べられました。ところが「突然に体内で、その細胞の核のなかにある遺伝子が何らかの影響で傷ついてしまい、それが修復できないまま変異細胞となることがあり、変化してどんどんと増殖していくのががん細胞です。」と話されました

20数年前から研究が進み、免疫の特性を活かしてがん治療に応用する研究が進みました。リンパ球を用いた免疫療法は1980年代にがん治療が行われ長い歴史で今日に至っております。

免疫療法が良いのは、「がん細胞だけを狙い撃ち」「免疫の記憶力(一度有ったことを覚えている)」「副作用が極めて少ない」「がん細胞増殖・再発・転機の抑制が長期にわたり有効」など他のがん治療と比べ、副作用が軽いため、身体にやさしい治療方法として注目されていると講演されました。

またがんワクチンの研究もおこなわれ、大学等で現在臨床実験の段階です。ここまで研究が進んで来ているのだと希望が持てます。

2時間の講演もあっという間に終わり、質疑応答も活発に行なわれ、聴衆の皆さんも熱心に聞き入っていました。講演後、多数の市民が相談したく、珠玖教授を囲んで2時間も延長して熱心にお話していただきました。



珠玖 洋氏



会場の様子